



商品開発と地域活性化

岡山県・岡山県立岡山南高等学校 3年 鈴木 恵理

私の通う岡山南高校では、商業学科の3年生を対象にトップマネジメントという講座がある。トップマネジメントでは、岡山の特産品を使った商品開発を行い販売する。この活動によって地元岡山の魅力をより多くの人に知ってもらい、地域活性化を行うのが目的だ。

今年度、トップマネジメントでは「ひめの恵」というドレッシングの販売を開始した。これは日本一美しい村、新庄村の特産品である甘麴^{あまこうじ}「ひめらて」を使った商品で、砂糖を使わないヘルシーさが売りだ。だが、商品の販売に至るまでには様々な苦労があった。まず、ひめらてをどんな商品にするか。また、どこに協力を頼むか。甘麴は発酵食品のため、特有の酸味がある。酸味を気にせず誰でも食べられる食品にする必要があった。ドレッシングにすることが決まったあとは協力をお願いした酢味噌^{みそ}工場^{あまこうじ}で試作品を作ってもらい、トップマネジメントのメンバーで試食をしながら試行錯誤を繰り返し、納得のいくものになった。次に苦労したのが、実際に商品を売ってもらう店舗を見つけることである。以前から付き合いのある百貨店、スーパー、書店などにまず地元の商品として置かせてもらい、新庄村「がいせん桜まつり」での屋台出店なども積極的に行った。

このような商品開発、販売に関わって感じたのは「商品の価値」と「知名度」の重要さだ。私が消費者として商品を購入するときには、まず「商品の価値」を見る。それは、パッケージから得られる第一印象や使われている食材、実際の味や活用方法などだ。それらを総合してその商品の価値になる。価値が高ければ高いほど消費者から買ってもらいやすく、人気のある商品になる。最近では輸入した食品が健康を阻害するなどの問題がニュースに取り上げられたこともあり、商品の安全性が商品の価値でもあるといえる。

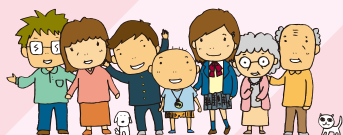
次に「知名度」である。私たちが普段利用することの多いスーパーには様々

な商品が陳列されており、そのほとんどがテレビなどで宣伝されている。誰もが目にするメディアを通じて宣伝することで、多くの消費者がその商品の存在を知る。宣伝が興味をひくものであれば、商品の売れ行きも良くなる。このことから、商品の知名度は売上に深く関係するものだといえる。トップマネジメントもラジオ出演やテレビ出演、新聞などに取り上げられ、商品の知名度を上げた。私が販売を行った際に「宣伝されていたのを聞いた」というお客様もいたほどで、メディアがいかに影響を与えるものかを理解できる。

また、トップマネジメントの商品の知名度が上がることによって、ひめらての知名度も上がり、売上也伸びた。結果としてトップマネジメントの「ひめの恵」ドレッシング開発、販売は新庄村の地域活性化へとつながったのである。それだけではなく、この「商品の価値」と「知名度」の向上によって、ひめらてを使った次の商品開発が決定された。次はトップマネジメントのメンバーで最も希望の多かったスイーツの開発である。商品開発に携わっているシェフの手助けにより洋菓子店パティシエの協力を得ることができ、ひめらてを使用したラスクを作ることになった。このことは再びメディアで大々的に取り上げられ、多くの消費者の注目を浴びた。このラスクが売れると共に、ドレッシングや、またこの両方に使われているひめらての売上が上がる。こうして私たちの目的である「岡山の魅力をより多くの人に知ってもらい、地域活性化を行う」ことが達成されたのである。

私たちの周りには食材以外にもたくさんの商品があり、それらを使って生活している。同じ商品でも販売している会社によってそれぞれに違いがある。いかに消費者が求める商品を作ることができるか、近づくことができるかで、経済は大きく動くのである。しかし、全ての売上を商品開発にかけることができるわけではない。私たちは授業の一環として活動しているため給与の支払いはないが、協力してくれている会社ごとにお金の割り振りがある。何をどれくらい売するのか、どれだけお金をかけるのかなど、気にしなければならない部分は多い。

家計から企業へのお金の流れや、企業から政府への金融の動きなど、トップマネジメントの活動は私にとって身近な経済だ。実際に商品開発から販売までに携わって、経済について深く考える機会が得られたと思う。私たちが作った



商品が別の企業を通じて消費者の手に渡り、そこから売上を得る。またそこから商品開発のためのお金や従業員の給料、施設の維持費や安全管理にお金が使われる。クレームがあった際の対処など経済はサービスも重要な点であると思う。メディアなど目に付きやすいものを活用し宣伝する際にもお金が発生し、これもまた経済である。思っている以上に私のすぐ近くに経済や金融という言葉は存在しており、私たちはそれらをよく理解し賢く生き抜いていくことが必要であると思う。

